

第16回ながまい net 「情報共有どうしていますか？」グループワークまとめ

グループ	話題提供を聞いた感想	あさがおネットを活用してのよい所	あさがおネットの課題	情報共有の課題
1	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の訪問看護師は活用しているが、地域連携室は活用できていない。ケアマネジャーからのメールが活用できそう。 ・急ぎのメールを送っても見てもらえないので、急ぎでないものに活用している。ケアマネジャーとのメール送受信に活用したい。 ・事務所のPCでバージョンアップができず使用できないと聞いたこともある。 ・すべての医師が登録されると、活用しやすくなる。 ・登録しているがうまく活用できていない。 ・患者さんが転院する時などに、同意をもらい病診連携をしている。 ・情報共有のためのメールのフォーマットがあると入力の手間が軽減するかも。 ・どんな情報を共有したいか。各機関により提供したい情報がある。 	⇒転院時に病病連携できる。	⇒ケアマネジャー、医師の登録数増加が必要 (ICT) ⇒ハード面の支援が必要 (バージョンアップ時の支援)(ICT) ⇒登録のタイミング(転院時、退院時) ⇒入力方法改善(フォーマットがあるとよい。)	⇒緊急度による情報共有方法の選択が必要 ⇒共有する情報内容(誰は何を求めている?)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・どの程度の利用者数なのか。 ・職種で閲覧制限がないほうが活用できるのではないか。 ・遠方の主治医が往診結果をあさがおネットのメールで送信してもらい参考になった。 ・訪問看護の報告書を、ネットを通じて主治医に提出している。郵送料が不要になり経済的である。 ・地域包括支援センターから関係機関にスムーズにやり取りができた。活用している医師が限られているので、広く活用できるとよい。 ・病院地域連携室が活用している。ストマや褥瘡の画像が送受信できるとよい。認定看護師には権限がないので、活用していない。 ・彦根市民病院からあさがおネットで送信されてきて役立った。 ・病棟看護師は活用が難しい。病院での活用窓口を検討する必要がある。 	⇒遠方の支援者との連携がタイムリーで役立った。	⇒活用できる職種と閲覧できる情報の拡大(認定看護師、病棟看護師等) ⇒医師の登録数増加が必要 ⇒各機関での活用ルール(誰が受けてどう共有する等) ⇒画像など活用方法の周知が必要	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所のメールのやりとりはしたことはない。電話の方が手っ取り早い。 ・動画は画期的である。伝えたいところを切り取って情報提供できる。 ・文章では伝わらない細かい情報は、画像送信することで理解しやすい。 ・薬の残数を伝えたりしている。在宅は薬の管理が難しく、ばらつきも多い。 ・同伴受診時に患者さんのことを伝えておくことは大事 ・看護サマリー、リハビリサマリー、主治医サマリーで情報共有している。 	⇒画像送信は、文章での連絡より理解してもらいやすい。	⇒活用方法の周知(画像の活用、服薬管理状況等)	⇒同伴受診時報告、各種サマリーなど複数の情報共有ツールがある。

4	<ul style="list-style-type: none"> ・退院されてからの生活の様子がわからない。患者さんに依頼して登録してもらうことで、支援者の情報を閲覧し把握できるようになった。 ・あさがおネットで、患者さんの状況や関係者の動きがわかるので、自分自身も活動しやすい。メール機能は時間を問わないので、医師に連絡しやすい。あさがおネットへの記載があると処方の変更や症状の変化がわかりやすい。 ・多職種が患者さんの課題を共有できるとよい。 ・メールを閲覧していない医師もいる。 ・内服している画像があると、飲み込みの状況などの様子を把握することができる。 ・リハ専門職から動画でアドバイスをもらえると、日々利用されているサービス提供者に伝えることができる。 	<p>⇒患者さんの変化や支援者の動きやわかりやすく、自身の活動がしやすい。</p> <p>⇒時間を問わないメールは医師に連絡しやすい。</p> <p>⇒処方や症状の変化を把握しやすい。</p> <p>⇒専門職のアドバイスを受けやすい。</p>	<p>⇒情報共有のタイミング（メールを送信しても閲覧してもらえない場合がある。）</p> <p>⇒リハ専門職(PT,ST,OT)の登録数増加が必要</p>	<p>⇒病院は退院後の生活状況を把握できない。</p> <p>⇒連絡先の状況を問わず連絡する方法があると連絡しやすい。</p> <p>⇒医師への連絡は時間を気にする。</p> <p>⇒支援する多職種が共有できるツールがあるとよい。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおネットに医師会定例会の資料が保管されているので、閲覧することができる。 ・褥瘡の処置の変更など把握することができる。 ・高島市はチームで登録していて情報共有してうまく連携できているとのこと。 ・メールで連絡したことを電話で伝えないと、閲覧してもらえないこともある。 	<p>⇒会議資料が保管されているので閲覧できる。</p>	<p>⇒活用方法の周知不足(キャビネット機能)</p> <p>⇒情報共有のタイミング（メールを送信しても閲覧してもらえない場合がある。）</p>	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護からのメールしか活用していない。 ・動画の活用方法を知ることができよかった。 ・びわ湖メディカルもあさがおネットもスタッフ全員が閲覧できるようにしている訪問看護ステーションもある。メールが到着すると携帯にメールが入るので、当番を決めて当番が必ず朝夕に確認するようにしている。 ・メールでの連絡を希望している医師もいる。外来での待ち時間の削減になる。他の医師も活用してほしい。 ・診療所の情報がわかるようになるとありがたい。 ・患者さんに退院支援をするときに、「ネットで連携している」と伝えると安心感につながる印象がある。 ・携帯電話につながるとありがたい。 	<p>⇒あさがおネットのメールが到着すると携帯等のメールに案内が出るので、確認漏れが少ない。</p> <p>⇒メールでの情報共有で、待ち時間などの時間削減になる。</p> <p>⇒連携が患者さん・家族の安心感がある。</p>	<p>⇒活用方法の周知不足(動画添付)</p> <p>⇒診療所医師の登録数増加が必要</p>	

7	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者みんなが確認できることで情報共有できたことになる。 ・利用してみて、よりよい使い方を教えてほしい。 ・湖北地域は半分以上のクリニックが使用の意向がある。 ・印鑑不要の書面のやり取りができるとよい。 ・言った・言わないなどのトラブルは減るかも。 ・PCが苦手だとシステム以前に活用する意欲がなくなる。 ・医師会には新システムの説明はあるが、他の職種にはない。活用してほしい職種に対して説明があってもよいのでは。 		<ul style="list-style-type: none"> ⇒活用方法の周知不足 ⇒ハード面の支援が必要(PC環境設定等支援) ⇒医師会等以外の新システムの説明がない。 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・文書ばかりで送っていたので伝わっていないか不安なところがあった。褥瘡や創部を画像で送信することで理解してもらいやすい。画像はリアルに伝わる。 ・主治医から採血のデータを報告いただけたりするので、有効に活用している。 ・診療所の医師の登録が少ない。もっと促してほしい。 ・薬剤師、ケアマネジャー、認定看護師なども登録してもらおうと活用する機会がふえるかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒画像送信は、文章での連絡より理解してもらいやすい。 ⇒血液検査データもタイムリーに情報収集できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒診療所医師の登録数増加が必要 ⇒薬剤師、ケアマネジャー、認定看護師の登録増加が必要 	

あさがおネットの課題整理

- 在宅医療・介護を担う専門職の登録数が増えないため、あさがおネットによる多職種連携が進まない。
- 活用できる職種と閲覧権限が制限されているため、支援チーム全員が情報共有できない。
- システム稼働するハード面の支援がないため、積極的な登録に至っていない。
- 患者さんの同意をとる機会が決まっていないため、必要性を感じる専門職がいる事業所や医療機関でしか登録がすすまない。
- あさがおネットの活用方法が限定的であり、活用できる機能の周知ができていない。
- 新システム移行についての説明会が医師会にしかなく、他利用者が新システムの活用に消極的になる可能性がある。
- 事業所や医療機関で、新システム活用について、個人に負担にならないような活用ルールをつくる必要がある。

情報共有の課題整理

- 連絡する双方の都合などにより連絡がうまくとれないことが多く、タイムリーな情報共有ができないことが多い。
- 支援者が多いと、それだけ多くの支援者に同じ内容の情報を提供するための多くの時間がかかる。
- 連携のためのツールはたくさんあるが、体系化されていない。